

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2014. 7. 10◆◆◆

公共用地の円滑な取得について
～事業実施予定地域における国土調査（地籍調査）の先行実施の必要性～

今年1月の着任以降、管内の関係自治体を訪問させていただき、様々なご要望をお聞きし、四国地方整備局に対する期待の大きさを実感致しました。私ども用地部門としても、その期待に応えるべく、少しでもお役に立てればと思っています。

さて、「事業の円滑な進捗は円滑な用地取得が鍵を握っている」というのは言い古されたフレーズですが、円滑な用地取得を阻害するものに公図と現地の不一致があります。公図と現地の不一致は複雑な調整事務とこれに繋がる登記事務が必要となり、時間とコストの増大を招くと共に時には公共事業実施そのものを阻害する要因になることさえあります。

これらを踏まえて国土交通省においても、公共事業と地籍調査の連携が大変重要であることから、平成15年3月の「国土交通省公共事業コスト構造改革プログラム」の中で用地・補償の円滑化の施策として地籍調査の推進を掲げ、今年度の予算執行通達においても公共事業と地籍調査の連携に努めることとされています。

これまで、事業箇所にかかる自治体をお願いをして、地籍調査の先行実施や連携実施に取り組んで頂いているところですが、中には様々な事情により実施に至らない事業箇所も有るのが実情です。今後も事業実施箇所毎にこれらの協議等を行いたいと考えていますので趣旨をご理解頂き、ご協力をよろしくお願い致します。

なお、地籍調査と用地調査は基準点設置・境界確認・測量作業等の共通する作業も数多くあります。今後の課題となりますが、この辺りを勘案して、双方の事業費を軽減する工夫も出来るのではとも考えています。

最後になりますが、東日本大震災の被災地においては概ね90%を超える地域で地籍調査実施済みと言うこともあり、復興にあたっての土地境界問題は比較的少ないと聞き及んでいます。この観点からも重要な取組と考えています。

●ポイント

- 地籍調査の連携・先行実施により
- ・用地取得における複雑な調整事務や登記事務が軽減される。
- ・ひいては事業のスピードアップ・総コストの縮減が図られる。

四国地方整備局
用地部長 小池英雄

■第25回全国「みどりの愛護」のつどいが徳島県鳴門市で開催

【建政部 都市・住宅整備課】

平成26年5月24日、徳島県鳴門市の鳴門・大塚スポーツパークを会場に第25回全国「みどりの愛護」のつどい式典が盛大に開催されました

「みどりの愛護」のつどいは、全国の公園緑地の愛護団体や河川・道路等の愛護活動を通じ緑の保護育成を行っている団体、さらに地域の緑化・緑の保全団体など、緑の関係者が一堂につどい、広く都市緑化意識の高揚を図り、緑豊かな潤いのある住みよい環境づくりを推進するとともに、緑を守り育てる国民運動を積極的に推進していくことを目的として、平成2年度から毎年開催しています。

今年度の開催は、徳島県鳴門市の「鳴門・大塚スポーツパーク」を会場として、全国のみどりの愛護団体、緑化関係団体等の関係者約1,200人がつどい、また皇太

子殿下のご臨席のもと、天候にも恵まれ盛大に開催されました。

式典は、

- ・あいさつ（太田国交大臣、徳島県知事、鳴門市長）
- ・「みどりの愛護」活動事例紹介、功労者大臣表彰、同徳島県知事表彰
- ・おことば
- ・誓いの言葉（地元小学生による）

【その後、場所を移動して】

- ・パネル展示御覧
（四国地方整備局長が殿下にパネル内容をご説明）
- ・記念植樹

の順に滞りなく進行し、閉会となりました。

■「平成26年度 四国地方整備局管内技術・業務研究発表会」の開催について

【企画部 企画課】

四国地方整備局では、四国の社会資本整備に係る課題等の調査・研究成果を発表し意見交換することで技術力の向上や行政への反映を行うことを目的として、「平成26年度四国地方整備局管内技術・業務研究発表会」を下記のとおり開催します。研究発表会は一般公開で行い、優秀なものは国土交通本省で開催される予定の国土技術研究会へ推薦する予定です。

詳細は四国地方整備局のホームページにも掲載しています。皆様ぜひご来場下さい。

1. 日時：平成26年7月23日（水） 9：00 開会
平成26年7月24日（木） 15：45 閉会
2. 場所：高松サンポート合同庁舎
第1会場：アイホール
第2会場：1306・1307会議室

（発表会HP）<http://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/kenkyu/index.html>

■第14回公共建築賞優秀賞の決定について

【営繕部 計画課】

第14回公共建築賞については、全国から88点の応募があり、30点が優秀賞に選ばれました。四国地区では「高松市立高松第一小学校・高松第一中学校」、「橋原町総合庁舎」の2点が選ばれています。

公共建築賞は、公共建築の総合的水準の向上に寄与することを目的とするもので、（一社）公共建築協会が国土交通省、全国知事会等の後援を得て昭和63年から1年おきに表彰を行っています。賞の特徴として、設計施工が優れているということのみでなく、地域社会への貢献や施設の管理保全といった視点からも評価を行うこととしており、そのため竣工後3年以上経過した公共建築が対象となります。

四国地区の優秀賞伝達式は、6月10日に行われました。

■優秀賞受賞建築物の概要

○高松市立高松第一小学校・高松第一中学校（香川県高松市）

平成22年4月に近隣の3つの小学校と2つの中学校が統合してできた四国で最初の施設一体型小中一貫教育校である。平成14年から企画段階の検討がはじまり、平成18年に国に申請した小中一貫教育特区計画が認定されたことから、高松市独自のカリキュラム開発を行う体制をとり、小中一貫教育の目指す姿をソフト面、ハード面双方に渡り議論しながら整備を行った。

その結果、学校での生活、行事・交流、学習面等において、保護者・生徒双方から

極めて高い満足度を得ている。
小中一貫校のモデルのひとつになりうる企画、設計、施工と、地域の気候風土に配慮し、防災拠点としての機能も有する点において優れた公共建築である。

○榑原町総合庁舎（高知県高岡郡榑原町）

町産材の活用、新エネルギーの利用、自然エネルギーの利用を積極的に行っており、杉や檜を主体とした林業と観光業の町である榑原町が進めてきた循環と共生のまちづくりのシンボルともいえる建物となっている。

パッチワークのような外観の一部は全面開放可能な大型スライディングドアとなっており、大扉を開けると効率の良い自然換気が期待できるとともに、1階は駐車場と一体となっており、神楽や祭りのイベント広場としての役割も果たし、住民に親しまれるスペースとなっている。

平成19年には「サステナブル建築賞」も受賞するなど建築としての企画・設計が優れているだけでなく、地域社会にも広く受け入れられた優れた公共建築である。

■7月は「河川愛護月間」です

【河川部 河川管理課】

推進標語：「せせらぎに ぼくも魚も すきとおる」

国土交通省では、昭和49年から毎年7月を「河川愛護月間」と定め、各事務所、都道府県、市町村が主体となって、地域住民、市民団体、河川行政機関等の協力を得て、流域全体の良好な河川環境の保全・再生を積極的に推進しています。

また、近年多発する河川水難事故を受け、7月1日～7日を「河川水難事故防止週間」と定め、出前講座等により水難事故防止に関する啓発活動を行い、河川利用者の安全意識の向上を図ります。

「河川愛護月間」における広報活動の一環として、平成16年度より河川愛護月間推進事業として、様々な取り組みを実施してきました。
平成26年度も、昨年度に引き続き「川遊び～川での思い出・川への思い～」をテーマに「絵手紙」を募集します。

「絵手紙」の募集の他、河川一斉清掃、水生生物調査、水難事故防止啓発活動など様々な行事に取り組み、より一層の河川愛護意識の高揚を図ることとしています。
皆さんも、川に対する思い出や思いを「絵手紙」に託してみませんか。
詳しくは水管理・国土保全局HPで確認してください。

<http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/index.html>

■7月は「海岸愛護月間」です

【河川部 地域河川課】

推進標語「美しく、安全で、いきいきした海岸を目指して」

海岸愛護月間は、海岸域の利用が拡大し、多様化している現状を考慮して、国民の共有財産である海岸を貴重な生活空間として良好な状態に保つため、海岸の持つ重要な役割について国民の理解と関心を深めるとともに、海岸を安全に利用し、管理する運動を盛り上げ、快適でうるおいのある海岸環境を積極的に創出し、海岸愛護思想の普及と啓発を図ることを目的として、昭和47年から定められています。

本年度も7月1日から7月31日までの1ヶ月間を「海岸愛護月間」と定め、海岸愛護思想の普及と啓発、良好な海岸環境の創出、海岸の適切な利用に関する啓発などを行うため、海岸清掃等の運動を関係機関と協力して実施していきたいと思っております。

■第9回 土砂災害・全国統一防災訓練

【河川部 河川計画課】

土砂災害防止月間(6月1日～30日)最初の日曜日となる6月1日に、第9回土砂
ページ(3)

災害・全国統一防災訓練が行われました。この訓練は、国・県・市町村・防災関係機関及び地域住民が一体となって防災訓練を行うことにより、土砂災害に対する警戒避難体制の強化と防災意識の向上を図るため、平成18年より統一日を中心に行われています。

四国からは統一日に、2県7市町村(避難訓練3市町村、情報伝達訓練4市町村)で訓練が実施されました。(徳島県、香川県は関係者と調整のうえ、統一日とは別日に訓練を実施)梅雨前線による集中豪雨などにより大雨洪水警報が発令され、土砂災害の危険性が高まったという想定の下、土砂災害警戒情報などの情報伝達訓練や市町村の避難勧告の発令に伴う地域住民参加の避難訓練が行われました。

避難勧告が発令されても一人では避難することが困難な災害時要援護者は、消防団や地域住民の協力を得ながらの避難訓練を行うなど、地域が一体となった訓練が行われました。この他にも土のうづくり体験、炊き出し訓練など災害時に必要と想定される訓練や防災学習会も併せて行われました。

このような訓練を継続して実施することにより、土砂災害の危険性が高まったときにスムーズな避難が行われ、土砂災害による犠牲者がゼロになることを期待します。

■「ほたる川排水機場竣工式」について

【徳島河川国道事務所】

平成23年度より整備を進めてきた、ほたる川排水機場が完成し、平成26年6月7日(土)に、徳島県吉野川市山川町(ほたる川排水機場内)において、地元関係者、国会議員、主催者(吉野川市、徳島県、徳島河川国道事務所)、約100名の参加のもと、竣工式が執り行われました。

ほたる川は吉野川の支川で、吉野川の南岸(右岸)に沿って、吉野川市を流れる流域面積7.4km²、延長約5.0kmの河川です。この流域では、内水被害が頻発しており、平成16年台風23号では、浸水家屋数66戸、浸水面積約88ヘクタールの甚大な被害が発生しました。この被害を受け平成21年12月に国、徳島県、吉野川市による「ほたる川総合内水対策協議会」を立ち上げ、平成23年度に「総合内水緊急対策事業」として事業化されました。「総合内水緊急対策事業」では、国による排水機場の整備、徳島県による河道整備、吉野川市による流域貯留浸透施設の整備等が実施され、これらの事業が完成すれば、平成16年10月の台風23号と同規模の降雨に対して、床上浸水被害をおおむね無くすることができます。

竣工式では、鴨島鳳翔太鼓の記念演奏が行われ、徳島県知事、吉野川市長、四国地方整備局長からの主催者挨拶、後藤田衆議院議員、中西参議院議員、三木参議院議員及び越智水資源部長から祝辞、徳島河川国道事務所長よりほたる川排水機場の概要説明を行いました。その後、銘板の文字を揮毫して頂いた、徳島県立川島中学校1年生2名へ感謝状を贈呈しました。

徳島県知事より、「ほたる川排水機場の完成は、ほたる川流域における浸水被害の軽減、住民の皆様の生活の安全安心に大きく寄与するものと期待している。」と挨拶を頂きました。

竣工式後には、徳島県知事をはじめ、国会議員、吉野川市長、徳島県議会議長、吉野川市議会議長、国土交通省関係者、県立川島中学校1年生2名等にご参加いただき、セレモニー(排水ポンプ稼働式、サザンカの記念植樹)が行われました。

徳島河川国道事務所では、今後も、安全で安心して暮らせる地域を実現するため吉野川における河川整備事業を引き続き進めて行きます。

■愛媛大学新生の橋梁工事見学について

【松山河川国道事務所】

愛媛大学工学部環境建設工学科の1年生約100人が、5月13日(火)と5月20日(火)の2日間に分かれて松山外環状道路のインター線と空港線の架橋工事現場を見学しました。

この見学会は、土木工事の魅力や公共事業を担う役割について考える機会を提供し、未来の若手技術者の育成支援につなげたいと、松山河川国道事務所と愛媛大学工学部が共同で、毎年開催しているものです。

いきいき四国ー7月配信版.txt

当日は、現場見学の前に松山河川国道事務所会議室に集まっていただき、四国地方整備局の仕事の内容、見学する松山外環状道路の事業説明等を行い、大型公共事業を行っている四国地方整備局のPRをしっかりとさせて頂きました。また、同大学のOGでもある先輩職員からも貴重な経験談を話していただきました。

それからいよいよマイクロバスで移動し、現場見学です。最初は、高架橋下部工事のベント杭の施工現場です。大型くい打ち機による施工を見て、「こんな大きな杭が地中で荷重を支えているのか」と迫力を感じているようでした。

次の現場は、PC4径間連続箱桁橋の上部工施工現場です。地面から支保工を立ち上げ、型枠施工、鉄筋組み立てといった施工状況を見学しました。

それから出来上がった供用前の高架橋の床版上を歩き最終現場見学地まで徒歩により移動です。高架橋の上は広く見晴らしも良く各自いろいろなことを考えながら歩いたのではないのでしょうか。

最後は、PC中空床版橋の上部工施工現場です。型枠、鉄筋組み立て、円筒型枠の据え付けなど、施工状況を見学しました。また、簡単にコンクリート橋の構造を理解できる供試体(PC版、RC版、コンクリート版)に乗り、薄くても折れないPC版の強度に「おお凄い！」と声を上げるなど、丈夫で強いPC版に大勢の生徒さんが感心していました。

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

「いきいき四国通信」に関するご意見等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

<mailto:seibikyoku@skr.mlit.go.jp>

*****「いきいき四国通信」事務局 *****
「いきいき四国通信」の配信中止・配信先変更のご希望がありましたら、事務局までご連絡頂きますようお願いいたします。

国土交通省 四国地方整備局 企画部
【担当】後藤 (内3126)、仙波 (内3176)
〒760-8554 高松市サンポート3番33号
電話(087)851-8061/FAX(087)811-8408
<mailto:seibikyoku@skr.mlit.go.jp>